

第40回津地方裁判所委員会及び第39回津家庭裁判所委員会議事概要

1 日時

令和6年2月6日（火）午後1時30分から午後3時40分まで

2 場所

津地方・家庭裁判所大会議室

3 出席者

（津地方裁判所委員会委員）

伊藤英明、稲垣朋子、内田典夫、笠原清孝、小島健、斎藤良太、竹内浩史、
刀根美弥子、中村さとみ（委員長）（津家庭裁判所委員会委員と兼務）、
原田慎、山本正仁（五十音順、敬称略）

（津家庭裁判所委員会委員）

井ノ口誠充、浦田順子、及川勝広、北出良仁、今野信太郎、阪本英晃、
中村さとみ（委員長）（津地方裁判所委員会委員と兼務）、古市太一、
森本隆之（五十音順、敬称略）

（事務担当者）

天春地裁事務局長、中澤地裁事務局次長、坂下地裁総務課長、富澤家裁総務
課長、草野地裁総務課課長補佐、田中家裁総務課課長補佐

4 議事

(1) 開会

(2) 前回提出された意見についての報告

(3) テーマ「司法行政部門におけるデジタル化について」

ア 司法行政部門におけるデジタル化の説明

イ 意見交換

別紙のとおり

(4) 次回意見交換のテーマ

ア 第41回津地方裁判所委員会

「成年年齢の引き下げに伴う裁判員裁判制度の広報、審理の在り方や留意点について」

イ 第40回津家庭裁判所委員会

「家事事件手続におけるウェブ調停等について」

(5) 次回開催日時

ア 第41回津地方裁判所委員会

令和6年7月8日（月）午後1時30分

イ 第40回津家庭裁判所委員会

令和6年6月28日（金）午後1時30分

(6) 閉会

(別紙)

意見交換の要旨

(●：委員長 ○：委員 ▲：事務担当者)

- 当裁判所におけるホームページを利用した情報発信について、当裁判所の利用者の利便性が向上するという観点で、御助言や御意見等をいただきたい。
- 法律の専門家だけでなく広く一般の国民が閲覧することを想定したものであるということであるが、内容が専門的過ぎて分からないという印象である。
- 現在のトップ画面には解体前の旧庁舎の写真がそのまま掲載されており工事中であることの案内がないが、利用者の視点から考えるのであれば、工事中であることや仮庁舎のどこにどの部署が配置されているかを分かりやすく掲載するほうが良いのではないか。
- ▲ 現在のトップ画面については、利用者の視点を踏まえ、改めて、検討させていただきたい。また、仮庁舎の配置については、手続案内のページにフロア図を掲載し、来庁者に少しでも分かりやすく御案内できるように工夫している。
- 誰をターゲットとした情報発信なのか、どのような目的で行っている情報発信なのかをもう少し明らかにしたほうが良いのではないか。
- 裁判所は、中立的機関であり、公益性も求められることから、目的やターゲットを見定めることが難しい部分もあると思う。
- マスコットキャラクターなども利用し、一般の方が気軽にアクセスしやすいホームページ作りも意識してはどうか。
- 所属先では、ホームページにアクセスした人が、いつ、どのページにアクセスしたのかを確認し、更なるホームページの利便性の向上の検討材料としている。
- ホームページへの流入検索ワードや、どの掲載情報がどの程度利用されているかなどを解析することで必要とされている情報は何かを分析し、利便性の向上を図るということも検討してはどうか。

- 所属先では、利便性の向上のためになるべくウェブ上で申込等ができるようにデジタル化や手続の簡素化を進めているところである。
- 電話が苦手だという人もいるので、所属先ではLINEでの相談も受け付けるようにしている。
- 所属先では、よくある質問を集約し、Q&Aのコーナーに掲載するようにしている。よくある質問と回答を掲載しておくこと、利用者はまずはその内容を確認してからホームページの内容を確認することになるのではないかな。
- 手続について、動画による説明もあると分かりやすく良いのではないかな。
- オンラインによる広報活動の取組について工夫できる点等があるか、御助言や御意見等をいただきたい。
- 所属先では、採用広報の場面において学生にバーチャルリアリティの世界で説明するという取組をしており、学生からは所属先をより身近に感じるという意見ももらっている。裁判所における広報活動においてもバーチャルリアリティを取り入れていくことで若い人に関心を持ってもらえるのではないかな。
- ホームページだけでなく、SNSを活用した積極的な情報発信を行っても良いのではないかな。
- 事前にオンラインで説明を行い、その上で裁判所に訪問してもらえれば、より充実した広報活動ができるのではないかな。
- Zoomなどのオンライン会議システムでは、相手の理解度を確認しにくい。伝えたいことが伝わっているかの確認作業を行い、そのギャップを埋めていくことで、オンラインでもより良い広報活動ができるようになるのではないかな。
- 貴重な御意見をいただいた。皆様の御意見を参考にさせていただき、今後、更に工夫を重ねていきたい。